



雲南市波多地区

「波多でいきいきと暮らす」たすけ愛の仕組みづくり

波多コミュニティ協議会が、廃校となった小学校を活用した「波多交流センター」を拠点に活動を開始。3つの目標に向かって、「はたマーケット」による買い物支援や「たすけ愛号」による自治会輸送、産業の振興など、さまざまな分野の取組を進めています。

これまでの地区のあゆみ

- H17 「波多コミュニティ協議会」が地域自主組織へ
S57に結成された協議会が、雲南市の推進する地域自主組織へ移行
- H20.3 波多小学校が閉校に
- H20.4 県の中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクトのモデル地区に選定
(H20~H22)
- H20.9 協議会内に「波多彩りプロジェクト」を結成
- H21 「たすけ愛号」による試行運行を開始
H23から本格運行

- H22 雲南市から波多交流センターの指定管理業務を受託
- H23 「波多地区振興計画」を策定
- H26.3 地区唯一の個人商店が閉店
- H26.10 波多交流センター内に「はたマーケット」をオープン
- H31.3 「たすけ愛号」の車両を更新

Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1 共有 きっかけは小学校の閉校

保育園、中学校に続き、波多小学校も統合のため閉校に。このままでは地域に賑わいが失われていくと、県と市の支援を受けて、協議会の有志が「波多彩りプロジェクト」を結成しました。「波多で生き生きと暮らしていきたい。」そんな思いを実現しようと活動を開始。アンケートの実施や3回にわたる各自治会との意見交換を通じて住民の意見を集めました。



話し合いの様子

step.2 計画 わかりやすく、優先順位をつけて

住民の意見を集約し、地区の道しるべとなる「波多地区振興計画」を策定。誰にでもわかりやすくなるよう難しい言葉は使わず、活動には優先順位をつけて無理なく取り組める内容にしました。

step.3 体制 みんなの理解を得ながら

みんなの意見を丁寧に聞いて話し合い、理解を得ながら体制づくりを進めました。活動ごとに、中心となって進める協議会の担当部門や消防団などの関係団体名を計画に記載し、取組の主体が目に見えるように整理しました。

step.4 実践 3つの目標に向かって

①思いやりをもって助け合える仕組みづくり、②生き生きと、元気で、前向きな暮らしづくり、③波多を愛する心を育む。この3つを目標として、買い物支援や自治会輸送などの活動に取り組んでいます。

step.5 発展 スマホにもチャレンジ

インターネットで商品を購入したり、遠方の家族とオンラインで交流したりするなど、今やスマホは生活にとって欠かせないモノとなっています。雲南市の協力を得て「スマホ活用相談会」を開催するなど、これまでにない新たな活動にも少しずつ取り組み始めています。



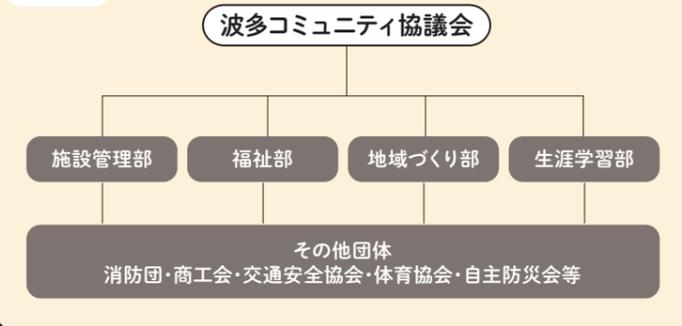
スマホ操作説明の様子



- 市役所・支所 ● 公民館等 ● 教育機関等
- 医療機関 ● 買い物施設 ● ガソリンスタンド

- 人口 277人(高齢化率 53.4%)
- 地域の特徴 ・雲南市の南西端に位置する山あいの地区。以前は、宿場町として発展
・最寄りのバス停まで距離があり、公共交通機関による移動も不便

体制図



私たちのやり方

Our Project



Pick UP

地域の台所

「はたマーケット」による買い物支援

平成26年3月に地区唯一の個人商店が閉店。高齢者等が日々の買い物に困る中、地区で何かできないかと検討を進めていたところ、雲南市から全日食チェーンを紹介されました。これをきっかけに具体的な検討を進め、同年10月に波多交流センター内に「はたマーケット」を開業。マーケット入り口近くには座って話ができる場所を設け、買い物に来たお客さんなど地域住民の集いの場になっています。

まちのひとの声



グランドゴルフの帰りなど、週1~2回利用しています。欲しいものが買えるので大変助かっています。

step.1 課題

地区で唯一の個人商店が閉店。「買い物できなくて困る」、「集まる場所がなくなって寂しい」などの声があがりました。

step.2 計画

協議会で検討を進めていたところ、雲南市から全日食チェーンを紹介されました。「交流センターにお店があればいいの」との住民の声もあり、店舗運営を選択。「ふるさと通信」を毎月送っているつながりを活かして地元出身者に寄付金を募り、補助金等も活用して、開設資金を集めました。

step.3 トライ

商店の閉店から7ヶ月後、交流センターに「はたマーケット」をオープン。生鮮品や加工品、日用品などのほか、酒類や地元産品も販売しています。交流センターの事務を担う協議会スタッフが、マーケットの運営も行うことで人件費を抑えています。



交流センター職員がレジ打ち、発注などを担当

step.4 改善

お客さんの欲しいものを聞き取りながら、品揃えを充実させています。

step.5 これから

冷蔵庫など店舗設備の更新資金の積み立てやマーケットを運営する人材の育成、確保など、この取組を続けていけるよう準備を進めています。

自治会輸送「たすけ愛号」による無料送迎

移動手段のない高齢者などのために、平成21年から「たすけ愛号」の試行運行を始め、2年後に本格運行を開始。はたマーケットに出かける高齢者などを無料で送迎します。車を所有するために協議会は認可地縁団体を取得。出身者に寄付を募り平成31年に車両を更新しました。



2代目「たすけ愛号」

「波多温泉 満壽の湯」の運営

市から指定管理を受けて温泉を運営。施設内の食堂は、はたマーケットから食材を購入して食事を提供しています。入湯者数は年間約2万人。



満壽の湯